

【図書名等】 厚生労働省指針に対応した労働安全衛生マネジメントシステム
 リスクアセスメント担当者の実務
 コード No.23163 第6版 定価 1,512 円（本体 1,400 円＋税）
 （コード No. および定価は現行どおりです。）

【発行日】 平成31年2月28日

【改訂の概要】

改訂のあらまし	該当頁
ISO45001(労働安全衛生マネジメントシステム)の発行を受けて、国際安全規格について共有すべき情報を加えたほか、内容の見直しを行った。 主な改訂箇所は以下のとおり。	
第1部 総論	
第1章 労働安全衛生マネジメントシステムの概要	
・3.1「労働安全衛生マネジメントシステムにおける危険性又は有害性等の調査及び実施事項の決定」において、(イ)の解釈に関する記述を削除。	24
・3.2「マネジメントシステム指針とリスクアセスメント指針の関係」における記述を一部削除。	27
第2章 リスクアセスメントの基本	
・1.1「リスクアセスメントに考え方」において、④、⑤を追加。	29
・2「リスク等の考え方」、3「リスクアセスメントの基本的な手順」について、全面的に本文を修正、図8を追加。4「リスクアセスメントの実施時期」を追加。	32～39
第2部 リスクアセスメントの立上げ時の準備（導入）	
第3章 リスクアセスメントの実施体制	
・2.2「リスクアセスメントの手順ごとの実施者」において、「(4) リスクの見積り結果の確認」と「(7) リスク低減措置実施後の残留リスク再評価、妥当性確認」を追加。	48
第4章 リスクの見積り・優先度の設定の方法	
・1.1「リスクの見積り・優先度の設定の考え方」において厚生労働省の自主点検図の結果(図9)を削除した。	54
・2.1「数値を用いないリスクの見積り・優先度の設定方法」において表2②に注を追加。「(2) リスクの序列化による方法」は削除。	55
・2.2「数値を用いるリスクの見積り・優先度の設定方法」において、「(1) ア「ケガの可能性」の区分の設定」を修正。「(2) ア 危険状態が発生する頻度の区分の設定」の内容を修正。表5削除。表7、表8②、表9②を差し替え。表9④・表10に注を追加。	55～64
・リスクアセスメント実施要領(例)の別表3の表2-4に注を追加。	76
第3部 リスクアセスメントの実施時の準備から職場の改善まで（運用）	
第6章 リスクアセスメントの準備段階	
・1「対象の選定」において本文を追加、図12を修正。	79
・2「ハザードに関する情報の入手」に本文を追加。	80
第7章 リスクアセスメントの実施（運用）	
・1.2「ハザードの探し方」において「(1) ハザードに着目する」を差し替え。	84
・機械的ハザードの事例を図14、図15で示し、参考情報を追加。	85～88
・図16に例示を追加。プロセスの説明を修正。	90
・図17として開口部付近の清掃作業の例を追加。	91

<ul style="list-style-type: none"> ・ 2.1 「リスクの見積り」においてア、イ、ウの内容を修正。 	95
<ul style="list-style-type: none"> ・ 表 12 に注を追加。 	97
<ul style="list-style-type: none"> ・ 3.2 「リスク低減措置の検討の優位順位」において対策の考え方を追加。 	98
<ul style="list-style-type: none"> ・ 3.3 「リスク低減措置の検討と決定」において「(2) リスク低減措置の決定段階の留意点」に④を追加。 	102
<ul style="list-style-type: none"> ・ 囲み内「リスク低減効果の予測の考え方(例)」を修正。 	104
<p>第9章 リスクの管理</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 囲み内「〈残留リスクの考え方〉」を修正。 	114
<ul style="list-style-type: none"> ・ 「ALARP の原則」を追加。 	116
<p>第10章 リスクアセスメント運用時の留意事項</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 3 「リスクアセスメントの歴史」において、ISO45001 に関して追加。 	123